

第 32 号
2019.1

JEMCA
CHUBU
NEWS

日環協

一般社団法人日本環境測定分析協会

中部支部ニュース

年頭のご挨拶



明けましておめでとうございます。中部支部会員の皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は第 21 回日環協・経営者セミナーを石川県金沢市にて開催しました。日環協の全国大会レベルのセミナーを、はじめて北陸の地で開催するに当たり、地元石川県及び金沢市の関係自治体や関係機関の皆様には多大なご協力をいただきました。また、石川県の会員の皆様には、企画・運営面で金沢らしさを隅々まで演出していただきました。お陰様を持ちまして、全国から 135 名もの参加者に足を運んでいただき、無事、盛況裡に終えることが出来ました。ここに改めて感謝申し上げます。

今回の経営者セミナーでは、5 年ぶりに明日の協会や業界を考えるトークディスカッションを実施し、活発な意見交換が行われました。また、セミナー開催前日が蟹の解禁日であったこともあり、金沢に来られて、この冬初めての蟹に舌鼓を打たれた方も多かったのではないのでしょうか。日本は小さな島国ですが、豊かな四季があり特色のある美味しい料理も驚くほどあります。本年は、環境セミナー全国大会が 10 月に熊本県にて、経営セミナー全国大会（経営者セミナーから経営セミナーに名称変更）が 11 月に東京都で開催されます。当地の美味しい料理を楽しみのひとつに参加されるのも良いかと思えます。

昨今、日本では毎年のように大規模災害が発生しています。

大規模災害時は、化学物質の流出、有害大気の発生あるいはアスベストの飛散をはじめとした甚大なトラブルが予測されます。そのような場合を想定し、愛環協では愛知県そして豊橋市、豊田市、岡崎市と連携して緊急災害時の環境調査を実施する協定を締結しています。また、3 年前から協定に基づいた災害訓練を 8 月末に実施しています。訓練を通じての成果や体制の見直しなどを具体化しているのですが、一方で、県単レベルの協定では限界も生じています。その場合、県内の主な分析機関の大半が少なからず業務に支障をきたしてしまうことから、他の県単や支部あるいは全国的なネットワークの必要性が浮上しています。

そのため、日環協本部（東京都）では、大規模災害時の緊急環境調査に対応できる全国ネットワーク作りの検討を始めています。大規模災害が発生したエリアに応じた緊急調査連絡体制を構築し、スムーズな情報共有化を目指しています。同時に、緊急調査を担当する会員には技術的に一定水準を超えた担保も要求されます。その担保には、協会が定期的に関催する共同実験や研修会への参加

の有無も重要な条件につながるのではないかと思います。

災害は万全の備えをすることが最初の対策である、と言われます。一方で災害が発生した時に如何に冷静・確実に化学物質調査を遂行するかが、我々の社会的使命でもあります。そのためにも、各事業所において災害に強くスムーズに事業が再開できるようなBCPの構築を進めていただければ幸いです。

最後に会員並びに、ご支援を賜っております関係各位のますますの発展と昨年にも増して良き年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

(日環協 中部支部長 河野 達郎)

第26回 日環協・環境セミナー全国大会 in 仙台 開催報告

平成30年度 第26回 日環協・環境セミナー全国大会 in Sendai (仙台) ～持続可能な社会に向けて～は、平成30年10月11日(木)、12日(金)にホテルメトロポリタン仙台にて開催されました。

初めに、日環協東北支部の長岡修一実行委員長からの開会宣言に引き続き、日環協松村徹会長の挨拶で華々しく開会されました。

特別講演は3題あり、①環境省 水環境課長 熊谷和哉氏より「水環境行政の動向」、②日環協会 会長 松村徹氏より「ISO と(一社)日本環境測定分析協会」、そして③東北大学大学院教授 白鳥寿一氏から「EU の政策から考えてみる資源とエネルギー」がありました。

また、緊急講演として、光科学イノベーションセンター理事長の東北大学教授 高田昌樹氏より「私たちの明日を守る東北放射光計画」がありました。

いずれも内容の充実した講演で質疑応答も活発でした。

翌日の技術発表では、3会場にて26題の技術発表がありました。

中部支部からは、下記3社からの技術発表がありました。

- 県内公共用水域における銅、ニッケルの存在状況について
一般財団法人三重県環境保全事業団 大島綾華氏
- 平成29年度共同実験を実施して～模擬試料中の水銀濃度測定～
株式会社イズミテック 内藤茂氏
- GISの機能及び活用事例
株式会社サイエンス 西坂裕太郎氏

ランチョンセミナーは、ヴェオリア・ジェネッツ株式会社、ビーエルテック株式会社、株式会社島津製作所の3社により開催され、セミナー開催中に並行してカタログ・分析機器展示がありました。中部支部会員からは、株式会社東海テクノ、株式会社ユニケミーの2社が、機器展示・カタログ展示に出展されました。



第21回 日環協・経営者セミナーin金沢 開催報告

平成30年度の第21回日環協・経営者セミナーは、初めて北陸の地、金沢で開催しました。

石川県、金沢市、(公財)金沢コンベンションビューローに後援いただき、11月8日(木)から9日(金)の2日間、金沢東急ホテルと金沢商工会議所会館を会場に開催されました。

今回は、中部支部が主催となり、ここ数年の1日開催から2日開催とし、参加者数もこれまでより2割多い120名を目標に参加を呼びかけました。その結果、全国から総勢135名の参加をいただき、これまでの経営者セミナーにはない大きな大会となりました。

開会式は、8日(木)13時半より、金沢東急ホテルにて開催されました。

河野達郎実行委員長からの開会宣言の後、松村徹日環協会長から開会挨拶があり、来賓には、石川県生活環境部 飴谷義博部長、金沢市環境局 佐久間悟局長、石川県計量検定所 北川幸一所长、石川県環境計量協会 平嶋進会長の4名にご列席いただきました。

2日間の経営者セミナーの企画・運営実施におけるポイントを以下に紹介します。

①北陸の地ならではの講演と金沢らしさを演出

特別講演のうち1題目は、金沢大学で長年にわたって大気汚染を研究してこられた早川和一先生(金沢大学 名誉教授/特任教授 環日本海研究センター)に、近年の越境汚染、特に海を越えてやってくるPM_{2.5}による大気汚染のメカニズムと影響についてご講演をいただきました。化学物質に関する考察だけでなく疫学的な統計も踏まえて、実際に起こっている事をPM_{2.5}の分布と繋げて分かり易く解説していただきました。

2題目は、NHKの人気番組「プラタモリ」にも出演された四ヶ浦弘先生(金沢 金の科学館代表)に、「金沢」という名前の由来にもなった地元鉱山のお話から金・銀・銅それぞれの特性がよくわかる簡単な実験をご披露いただきました。

また、1日目の夜に開催した懇親会は、金沢茶屋街の芸妓による「金沢おどり」の華やかな雰囲気で開催しました。また、地元石川県を代表する日本酒や金沢名物のおでん・海鮮浜焼きのコーナーもあり、会場には終始美味しいにおいが漂っていました。

懇親会では、地元金沢のプロ司会者である山田彰子さんに開会式・特別講演に引き続き、司会をお願いしました。

懇親会終了時には、中部支部主催行事では恒例の夜の繁華街を安心して楽しんでいただける「夜回りMAP」を配布させていただきました。

②経営者セミナーらしく明日の業界や企業を考える

日環協の全国セミナーは2つあり、ひとつは中堅若手の技術発表を主体とした環境セミナーがあり、今年度は東北支部主催で仙台にて盛大に開催されました。技術発表の内容も質の高いものが多く、また最近の中堅若手のプレゼン能力の高さも感じられました。一方で、経営者セミナーは、経営層や次期経営層あるいは中間管理職を対象として、テーマを決めた講演会やトークセッション等を行います。金沢開催では、多くの地域の参加者が日帰りはほとんど不可能であったことから、2日目の午前中まで使った1泊2日の日程としました。過去、6年前の四日市(三重県)や鴨川(千葉県)での経営者セミナーと同じ形式にしたことで、少し余裕を持った企画・運営と参加者相互のコミュニケーションにも効果が得られたと思います。

今回の経営者セミナーでは、1日目の特別講演「環境計量分析業界を取り巻く世界的な動向」と、2日目のトークセッションのテーマ3「環境ビジネスの将来展望」～次に来るテーマは何か～、を

松村徹日環協会長にお願いし、ISOの動向やそれに伴うEU各国の分析機関の展開、成長著しい隣国中国の分析機関の経営状況を例に、日本国内との比較や今後の展開について、ご講演とトークセッションがありました。

また、別会場のトークセッション1「経営基盤としてのLIMSの導入・運用」～生産性改善、労務管理のために～は、LIMSについて機能が異なるメーカー3社をパネリストに、既にユーザーとなっている参加者や今後の導入を考える方々と、真剣な意見交換がなされました。セッションの座長兼コーディネーターである田中正廣日環協顧問には、「電子による計量証明書発行運用について」と題して緊急報告を行っていただきました。

トークセッション2「数字から読み解くイノベーション」～経済を知り、経理が動かす経営～では、コンサルタントとしても活躍されている(株)サクセスブレインの田野口和矢氏(税理士)に座長兼コーディネーターをお願いし、近年の企業を取り巻く環境の変化からはじまり、イノベーションの起こし方、財務諸表の見方まで企業経営についてあらゆる角度から解説があり、普段触れることが少ない話題であったため、参加者の方々は興味を持って聴講、質問をされていました。

最後に、ランチョンセミナーとして、全環境企業年金基金の和泉信俊常務理事から、「現役世代の引退後イメージと企業年金の役割」についてミニ講演を頂きました。労働人口確保のため、企業が雇用を継続する年齢を従来の65歳から70歳までに引き上げる検討を始めると同時に、引退後の経済的なイメージがしやすくなる非常に興味深い内容でした。

③セミナー集客の営業活動と兼六園ツアー特別企画

金沢での経営者セミナーでは、120名の参加者を目標とし、企画の特徴もあり経営層だけでなく、次世代の経営層や中間管理職にも多く参加いただけるように、セミナー営業活動にも注力しました。

実際には、石川県の実行委員にも何度か営業に同行いただいて、支部や県単のセミナーや講習会等10カ所以上を訪問し、営業させていただきました。そのなかで、経営者セミナーの企画や運営に至るヒントを多くいただきました。また、賛助会員にも積極的に参加を呼び掛け、7社14名の参加をいただきました。

参加者が多ければセミナーが成功する訳ではありませんが、これまで参加したことのなかった会員や、1社2名の参加者も想定より多くなり、新たな交流に少しでもつながったのではないかと思います。

また、10数年ぶりの企画として、参加者の同伴者枠を設定し、新たな交流の機会として同伴者の方を主に対象とした金沢兼六園ツアー・エクスカージョンを実施しました。実際の同伴者は目標の10名には満たなかったものの、同伴者同士の事前企画から、懇親会には金沢らしく和服で出席いただき、華やかな演出にご協力をいただきました。

兼六園ツアーは、朝の雨も一気に晴れ、雪吊りを始めとした観光名所やお茶屋でのお昼の会席も楽しんでいただきました。

翌10日(土)には、金沢市の海沿いのゴルフコースにて親睦ゴルフコンペを開催し、16名の参加者による和やかな戦いがありました。

総括

今回の経営者セミナーは初の北陸開催ということもあり、参加者数の見込みに不安を抱えておりましたが、最終的には目標を上回る多くの方々にご参加いただきました。その背景に、新幹線開通効果の大きさを改めて知りました。

また、これまでに大きなセミナーを開催したことがなかった場所でのイベントには、地元の日環協会や県単会員の皆さんとの間に親密な協力関係を築くことが出来るかという点が、イベント成功の大きな鍵になります。今回の開催地であった石川県環境計量協会の方々には、日環協会員であるかどうかに関わらず県単を挙げてご協力いただき、細かいところにも気配りの行き届いた、地元色の豊かな大会運営になりました。平嶋会長をはじめとする石川県環境計量協会の皆さま、本当にありがとうございました。

一方で課題もいくつかあります なかでも一番大きいのは「経営者セミナー」と題して開催するイベントにおいて、どういった目的を持ってコンテンツを作ることが、参加を検討する方々に興味を持っていただけるのか、参加する意義を感じていただけるのが、ほぼ手探り状態で一から考えなくてはならなかったことです。

今回で21回と回を重ねる中で、初期の頃からは想像出来ないほどに私たちを取り巻く環境も変わり、時代に合わせて変化していかななくてはならないのは当然ですが、一方で一貫して変わらない目的やテーマの下に進めるものがあり、そこから何らかのメッセージを発信（「金沢〇〇宣言」といったように）出来るようなセミナーにしても良いのではとも考えました。経営者セミナーと言えば、業界内はG20やサミットのようなものであっても良いのではないのでしょうか。セミナーの運営を支部任せではなく、本部にも積極的に関わって貰うことが出来れば、一貫性のある企画を作ることが出来るのではないかと考えました。

2019年はオリンピックの前年で活気づく東京において、従来の「経営者セミナー」が「経営セミナー」と名前を変えて開催される予定です。年号も変わりますので新たな時代の幕開けに相応しいセミナーになることを祈念しております。

（経営者セミナーin 金沢 実行委員 木村 直樹）



計量証明書の電子交付サービス「e-計量」のご紹介

日環協は、H26年度から経済産業省計量行政室と擦り合わせを進めて、H27年10月に「計量証明事業における計量結果の電子交付の運用基準（ガイドライン）」を公表し、計量行政室は、「計量関係法令の解釈運用等について（H28年3月）」において、「計量証明の電子交付」について明記しました。

JEDACも、当該ガイドラインの公表に合わせて、H27年10月に計量証明書の電子交付サービス（e-計量）をリリースしました。現在、ガイドラインに適應した計量証明書の電子交付サービスは、「e-計量」が国内唯一のものであります。

また、H30年3月30日付で内閣官房IT総合戦略室が公表した「民-民手続におけるデジタル化の取組」には、「4.環境計量証明書の電子化」として、「e-計量」が掲載されています。

この「e-計量」は、むしろ、小規模な機関（会社等）の方が導入しやすいものです。ICT化が進んだ機関では、効率的な本格導入に当たっては、基幹システムへの組み込み等システムの改修が必要となる場合があります。

なお、現時点で、事業規程変更届の受付があったのは、「東京都・埼玉県・千葉県・三重県・京都府」の5都府県となっています。

受託分析業界もグローバルで加速度的に進むICT化の大きなトレンドの中、もはや周回遅れの日本は危機的状況だと言わざるを得ません。是非、早めの取組みをご検討ください。

（一社）日本 EDD 認証推進協議会（JEDAC） 代表理事 上東 浩



県単だより

静岡県

静岡県単でのフリーディスカッション

一般社団法人静岡県計量協会環境計量証明部会では、昨年度に続き『第2回環境計量証明部会交流会』を平成30年9月27日（木）にクーポール会館にて行いました。

竹井部会長の挨拶の後、グループディスカッションを実施、28事業所・65名の参加がありました。

7セッション（「防災対策」「騒音・振動・低周波音の評価方法と苦情対策」「分析技術の継承」「大気調査サンプリング方法」「自然環境について-外来生物問題・シカ問題-」「水質調査サンプリング方法」「職場環境の問題点と改善点」）、7グループによる約1時間半のグループディスカッションでは、日頃から抱えている疑問・問題点等を交え、終始活発な意見交換が行われました。

若い方も多数参加いただき、第2回の交流会も盛況でした。今後も協会員の技術の向上の助けとなるような議題を提供できればと考えます。

（報告：株式会社サイエンス 斉藤 康）



石川県

石川県環境計量協会技術研修会

平成30年11月30日に金沢商工会議所会館で日環協中部支部と石川県協会共催の技術研修会を参加者49名で実施しました。株式会社愛研の石神昇講師から平成30年度共同実験について結果報告と解説があり、その後日環協の木村講師からe-ラーニングと日環協の活動について紹介がありました。また、ジーエルサイエンス株式会社から標準液調製のポイントと認証標準物質の紹介を、京都電子株式会社から還元気化-金アマルガム法による正確な水銀測定の紹介がありました。最後は日本海環境サービス協潤一講師から計量証明書の記載事項についての説明がありました。計量証明書の約束事についてはその手の講習会などもあまり見ないので若手参加者には良い勉強になったと思います。



この研修会には行政機関の方も多数参加いただきました。研修会終了後場所を移して行われた懇親会には講師の方々も含め38名が参加され、交流を深める良い機会となりました。日環協中部支部には石神昇講師と木村直樹講師を派遣していただき毎回の事ですが大変お世話になりました。

(報告：株式会社大和環境分析センター 中村 圭一)

愛知県

フットサル交流大会

愛環協主催の「フットサル交流大会」を11月17日に開催しました。この交流試合は2014年に愛環協会員3社による開催から始まり、今回で4回目の開催となります。おかげさまで参加企業様も増加し、今回は「株式会社イズミテック」、「東亜環境サービス株式会社」、「株式会社三進製作所」、「株式会社環境科学研究所」、「株式会社ユニケミー」、「一般財団法人東海技術センター」(順不同・敬称略)の合計6社が集まりました。

フットサルは、主に室内で行うサッカーに似たスポーツです。サッカーと比べ、コートが狭く、ルールも分かりやすいため、未経験者、性別に関係なく、楽しめるスポーツです。私も東海技術センターに入社するまで未経験でしたが、活躍こそできなくても毎回、楽しませていただいております。

第4回となった今回の交流試合では女性が大活躍しました。今回、女性が得点した場合は2点となるルールを設定したところ、環境科学さんの作戦が見事的中！ゴール前に待機していた女性2名にパスが集中！面白い様にゴールが決まる！！当センターも女性が参加していましたが、練習不足



で連携がうまくいかず、最後まで得点に至らず！！悔しい思いをしました。なにより、結果以上に交流や友好の機会になり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。今回、ご参加いただいた会員企業様以外でも交流試合のお誘いなどお気軽にお声かけください。挑戦をお待ちしております！

(報告：一般財団法人東海技術センター 小管 勇輝)

中部支部主催・共催行事予定

- 1 SOP研修会
日 時：平成31年1月23日(水)
場 所：日本特殊陶業市民会館
- 2 特別企画セミナー（愛環協共催）
日 時：平成31年3月25日（月）
場 所：ウィルあいち（愛知県女性総合センター）
- 3 中部支部運営委員会及び中部支部会員連絡会
日 時：平成31年4月19日(金)
場 所：プリンセスガーデンホテル（名古屋市）
- 4 日環協通常社員総会
日 時：平成31年5月21日(火)
場 所：タワーホール船堀
- 5 環境測定分析新任者研修会（愛環協共催）
日 時：平成31年6月（予定）
場 所：未定
- 6 環境測定分析士3級試験及び環境騒音・振動測定士初級試験
日 時：平成31年6月（予定）
場 所：日環協本部の指定するところ
- 7 初級統計研修会（愛環協共催）
日 時：平成31年7月（予定）
場 所：未定

（各種研修会などの詳細につきましては、事務局にお尋ねください。）

日環協中部支部ニュース 2019. 1 第32号

発行元 一般社団法人 日本環境測定分析協会

中 部 支 部

〒460-0022 名古屋市中区金山一丁目2番4号 アイディ・エリア405号

TEL (FAX) 052-321-3803

発行責任者 河野達郎

編集委員 河野達郎（愛知） 田中正廣（三重） 目黒輝久（静岡）

杉浦智彦（岐阜） 西井淳（富山） 中村圭一（石川）

事務局 杉本利幸